

# 亜リン酸肥料施用による 美方大納言小豆の増収技術

## 【背景・目的・成果】

美方郡の特産物として注目されている「美方大納言」は、旧県立中央農業技術センター但馬分場により純系選抜法により育成された小豆です。この美方大納言は、乾燥子実の百粒重が大きく、種皮色が鮮赤色でスクロース含量が高いのが特長ですが、収量が低く、増収技術の導入が望まれています。

そこで、黒大豆の莢数増加にも効果が認められている粒状亜リン酸肥料を播種20～35日後に1株あたり1g施用することにより、莢数が増加し、増収することがわかりました。

## 亜リン酸肥料の施用法

- 1株あたり約1gを土寄せ時に株元施用し覆土します(写真1)。
- ペットボトルの蓋のすり切り1杯は、およそ7gとなるので、7株分となるので覚えておくと便利です。
- 適度な降水があれば、土面に露出していてもすぐに溶け、根から吸収されますが、覆土したほうが効果が安定します。



写真1 亜リン酸肥料の施用状況

## 亜リン酸の効果

- 亜リン酸の効果は播種後20日(1回目土寄せ時)、35日(2回目土寄せ時)のどちらでも莢数増加の効果がありますが、より開花期に近い35日のほうが効果が高くなります(図1)。



写真2 生育の様子(浜坂)

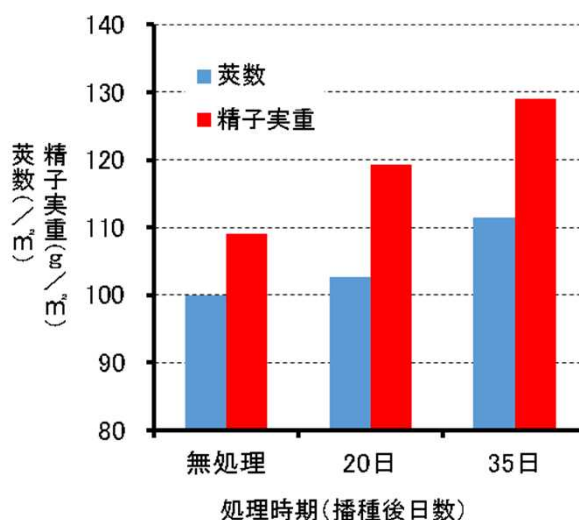


図1 亜リン酸肥料の施用時期別莢数増加効果と増収効果  
(2011～2013年 3カ年平均)

## 【技術の活用】

亜リン酸肥料の効果を最大限に活かすためには、施用までの生育を確保しておく必要があります。天気予報などを参考に播種適期(7月中～下旬)を逃さないことが重要です。